

シリーズ
さくひん



『歌舞伎役者』(貼り絵)

この作品は、ねんりんピック'96で、より多くの人に「老人保健施設」を知っていただくために、入所している方に作っていただいたものです。

入所者のみなさんは「歌舞伎の絵」といってもどんな絵になるのか分からない様子で、初めは「これでいいの?」と言いながらも制作に取り組んでいました。出来上がった時の作品の見事さに、どなたも感激していたようです。みなさんの努力の賜といえるでしょう。

(制作日数、約2週間) 甲州ケアホーム入所者一同



YAMANASHI ろうけん編集スタッフ

編集後記

かねてから念願の「YAMANASHI ろうけん」創刊号が出来上がりました。

本誌では、老健施設の機能面から協議会の活動内容に至るまで、幅広い分野にスポットをあて、利用者や地域の方々を結ぶ情報誌として活用していただきたいと考え、編集いたしました。

今後ともさらにパワーアップした広報誌を作りたいと思います。

ご意見・ご感想などありましたら、事務局までお寄せください。

(編集委員長 山梨ライフケア・ホーム 竹内 亨)

山梨県老人保健施設協議会広報誌



1997 January 創刊号
山梨県老人保健施設協議会広報誌

編集・発行

山梨県老人保健施設協議会
広報委員会

事務局

〒406 山梨県東八代郡石和町四日市場
2031 甲州ケアホーム内
0552-63-0242

制作

Be With co.

YAMANASHI

333けん

1997.January 創刊号

山梨県老人保健施設協議会広報誌

■創刊コンセプト

老人保健施設って
どんなところ?

■カラー版

ろうけんマップ

■定期総会から行事まで

山梨県老人保健施設
協議会事業紹介

専門部会紹介



創刊にあたって特別寄稿

山梨県老人保健施設協議会会長 島津寿宏
全国老人保健施設協議会会長 山口 昇
山梨県知事 天野 建

創刊にあたって 特別寄稿

山梨県老人保健施設協議会会長

島津 寿宏



老人保健施設は、今後急増する要介護老人の医療ニーズと生活ニーズに答えられる新しいタイプの施設として、昭和61年に老人保健法の改正により制度化され、昭和63年より本格実施されました。そして、この老人保健施設の基本理念である「高齢者の自立を支援し、家庭復帰を目指す。」ということを目指して活動してきたことが社会的に評価され、その後急速に施設数が増えて、平成元年12月には社団法人全国老人保健施設協会が発足いたしました。平成2年6月30日に、ここ山梨県において、第1回全国老人保健施設大会が開かれ、今年度は第7回大会が兵庫県で開催されました。

山梨県老人保健施設協議会は平成2年12月25日に、それまでに開設していた5施設で発足いたしました。現在、山梨県で開設している18施設がすべて加盟しており、活発な活動を行っています。（尚、山梨県老人福祉計画によると、平成11年までに施設数は22施設となる予定です。）現在の主な活動は、年1回の総会と、看護・介護・相談指導員・PT&OT・栄養士・事務長のそれぞれの部会を通じての研修等となっています。さらに今年度より、理事会制度の導入に伴い、研修委員会、広報誌編集委員会、福利厚生委員会を発足させ、より充実した会運営を行っているところです。

全国レベルでみると老人保健施設が創設されて8年という短期間に1500施設、13万床と急速に増加してきたため、老人保健施設の質の施設間格差が増大していることは歪めません。また理念として「家庭復帰を目指す」ことをあげていても、現実問題として、痴呆性老人の場合や在宅支援サービスが十分に整っていないことなどにより家庭に帰ることができない方も増えています。このような点が、今後老人保健施設協議会として考えていくべき課題だと思われます。

山梨県老人保健施設協議会としては、質の格差を解消していくために、今後もより研修事業に力を入れていきたいと思っています。また「家庭復帰

の問題に関しては、老人保健施設自体がデイケアやショートステイやナイトケアなどの在宅支援サービスを積極的にを行い、在宅支援の拠点となるように努力し、かつその他の地域福祉サービスとの連携を深めることが必要と思われます。将来的にみると、平成12年には公的介護保険の導入が検討されています。そしてこの介護保険によりこれまでの保険・医療・福祉の地図が大きく塗り替えられようとしています。つまり、老人保健施設や特別養護老人ホームや病院のなかの療養型病床群が介護保険の対象となるのですが、その中で老人保健施設がどのような役割を担っていくべきなのか、また利用者からどのように選択されていくのか、これからの重要な問題となっていきます。

このように、老人保健施設はまだたくさんの課題を抱えていますし、また将来的立場を考えると未知数の部分が多いと思われます。この協議会誌が、各施設間及び各職種間の情報交換の場としてまた利用者や地域への情報発信の場として機能することにより、今後の各老人保健施設の活動に役立ち、山梨県老人保健施設協議会の発展につながりますことを願っております。



山梨県知事

天野 建

山梨県老人保健施設協議会広報誌の発刊を、心からお祝い申し上げます。

山梨県老人保健施設協議会の皆様方には、日頃から本県の福祉向上に多大な御尽力をいただき、感謝申し上げます。

御承知のとおり、我が国における高齢化は、平均寿命の伸びと出生率の低下により、極めて急速に進展しております。特に本県におきましては、65歳以上の高齢者の割合は、17.4%と全国平均に比べ約5年早く高齢化が進んでおり、高齢化社会対策は本県の主要施策の一つとなっております。このような中で、県におきましては、「山梨に住んでよかった」と実感できる「幸住県山梨」の実現に向け取り組んでいるところであります。

平成6年10月に「長寿やまなし県民憲章」を制定するとともに昨年3月、明るく活力ある福祉社会、長寿やまなしをめざして「長寿やまなしプラン21」を策定し、共に健やかに長寿を喜び合える社会づくりのために努力しているところであります。また、国におきましては、高齢者介護が大きな社会問題となっている状況を踏まえ、介護が必要な者に対し社会的支援を行う仕組みとして、介護保険制度の創設を進めているところであります。この制度が導入されますと、老人保健施設は、施設サービスとして保険給付の対象となり、一層のサービスの質の向上が求められるものとなります。

老人保健施設は、病状安定期・回復期にあっても、医学的管理の下における看護・介護サービス及びリハビリテーション等を必要とする高齢者を対象に入所サービス・デイケア・短期入所ケアなどの在宅ケアを提供してその自立を支援し、家庭への復帰を目指す地域福祉の拠点としての施設であります。今後とも当協議会の皆様方が一体となり、医療・福祉の拠点として地域福祉向上に一層のご協力をいただけますようお願い申し上げますと共に、益々のご発展を祈念申し上げ挨拶いたします。



全国老人保健施設協会会長

山口 昇

山梨県老人保健施設協議会広報誌の創刊まことにおめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。

老人保健施設が新しいタイプの高齢者施設として創設されてから8年が経過いたしました。この間老人保健施設は、貴重な社会施設の一つとして地域でその役割を果たしてきました。特に山梨県では、早くから会員の皆様方が心一つにして協議会を結成され、その中でいろいろと研鑽をつまねて今日に至っていることはまことに慶賀にたえません。

中でも第1回全国老人保健施設大会が、山梨県（石和）で開催され、そのテーマを「寝たきりからの解放をめざして」とされたことは全国の会員の記憶に新しいところであります。私も参加させていただきましたが、あの時のスタッフの方々の魂胆とした姿、輝いた眼差し、統一されたユニホーム、いやそれにもまして素晴らしい大会運営等、私の記憶に鮮明に残っています。あの第1回山梨大会の成功に支えられ、私も第2回大会を、広島で開催させていただきました。今日では、全国老人保健施設大会も年々参加者や演題数もふえて参りましたが、それもあの第1回山梨大会がその第一歩であったと認識しています。

高齢化が進み、寝たきり等の要介護老人も増え続けています。現在、国では公的介護保険制度の創設を目指して、いろいろと検討が加えられています。私も老人保健福祉審議委員の一人として、これに参画していますが、平成7年、全老健からも老健施設の理念や今後の高齢者ケアのあり方について、意見書を審議会に提出させていただきました。

今後老健施設はますます増え続け、最終的には現在の2倍に達すると推計されています。施設数が増えても質の低下があってはなりません。そういう意味では、山梨県のように県内での大会を開催され、本誌のような広報誌を発刊されることは真に当を得たものと思われます。今後の山梨県の老健施設と本誌の益々の発展を心よりお祈りいたします。

「老人保健施設」ってどんなところ？

老人保健施設とは

病状が安定し、病院への入院治療の必要はないが、看護や介護、リハビリテーションに重点をおいた医療ケアを必要とするお年寄りを対象とした施設です。心身の自立を支援し、より早く、家庭復帰・社会復帰の可能性を高めることを目指しています。



相談



療養室

対象となる方

70歳以上（または65歳以上で、身体障害者手帳をお持ちか、痴呆のある方で、老人医療受給者証の発行を受けている方）で、病状安定期にあり入院治療を必要としない状態の方です。



食事



レクリエーション

スタッフ



健康管理



リハビリテーション

医師、看護婦、理学療法士、介護士、栄養士、相談指導員、事務職員などが、お世話させていただきます。また、ご家庭での介護、機能訓練、食事などについての悩みごとや心配ごとも、お気軽にご相談ください。

おもな行事



ひなまつり
お花見



たなばた
夏祭り



運動会
文化祭
敬老会



もちつき大会
クリスマス
節分

サービスの内容

老人保健施設では、心身の状態に応じた様々なサービスを提供します。

1. 入所サービス

生活適応訓練を中心としたリハビリテーション、食事・入浴など日常生活のお世話、医師・看護婦による健康チェックなどを行います。また季節ごとの諸行事や、レクリエーションも行ってあります。

<ショートステイ（短期入所）>

冠婚葬祭、農繁期や、ご家族の病気、出産、旅行、介護疲れなどにより、家庭でのお世話が一時的に困難になった時、2週間以内の短期入所が利用できます。

2. 通所サービス（デイケア）

ご家庭で療養されている方が、随時通っていただき、健康チェックのうえ、リハビリテーション、レクリエーション、食事・入浴などのサービスが利用できます。なお、送迎がご希望の方はご相談ください。



デイケア送迎



リハビリテーション

利用料

入所 1ヶ月 60,000円程度（食事、入浴、日用品などの費用が含まれています。）

※おむつ代、理髪代は別途料金となります。

通所 1日 800円程度（昼食、日用品、おやつなどの費用）

※入浴料は別途料金となります。

★利用料は、各施設によって、多少異なります。



その他
誕生会など
趣向をこらした
行事を
計画して
おります。



レクリエーション

ろうけんマップ

山梨県老人保健施設圏域別地図



しおかわ福寿の里



映北シルバーケア・ホーム



山梨ライフケア・ホーム



あさひホーム



ひばり苑



狭西老人保健センター



ノイエス



ケア・センターいちかわ



映南ケア・ホームいいとみ



ナーシングプラザ三珠



甲府南ライフケアセンター



甲州ケア・ホーム



白樺荘



つる



甲府かわせみ苑



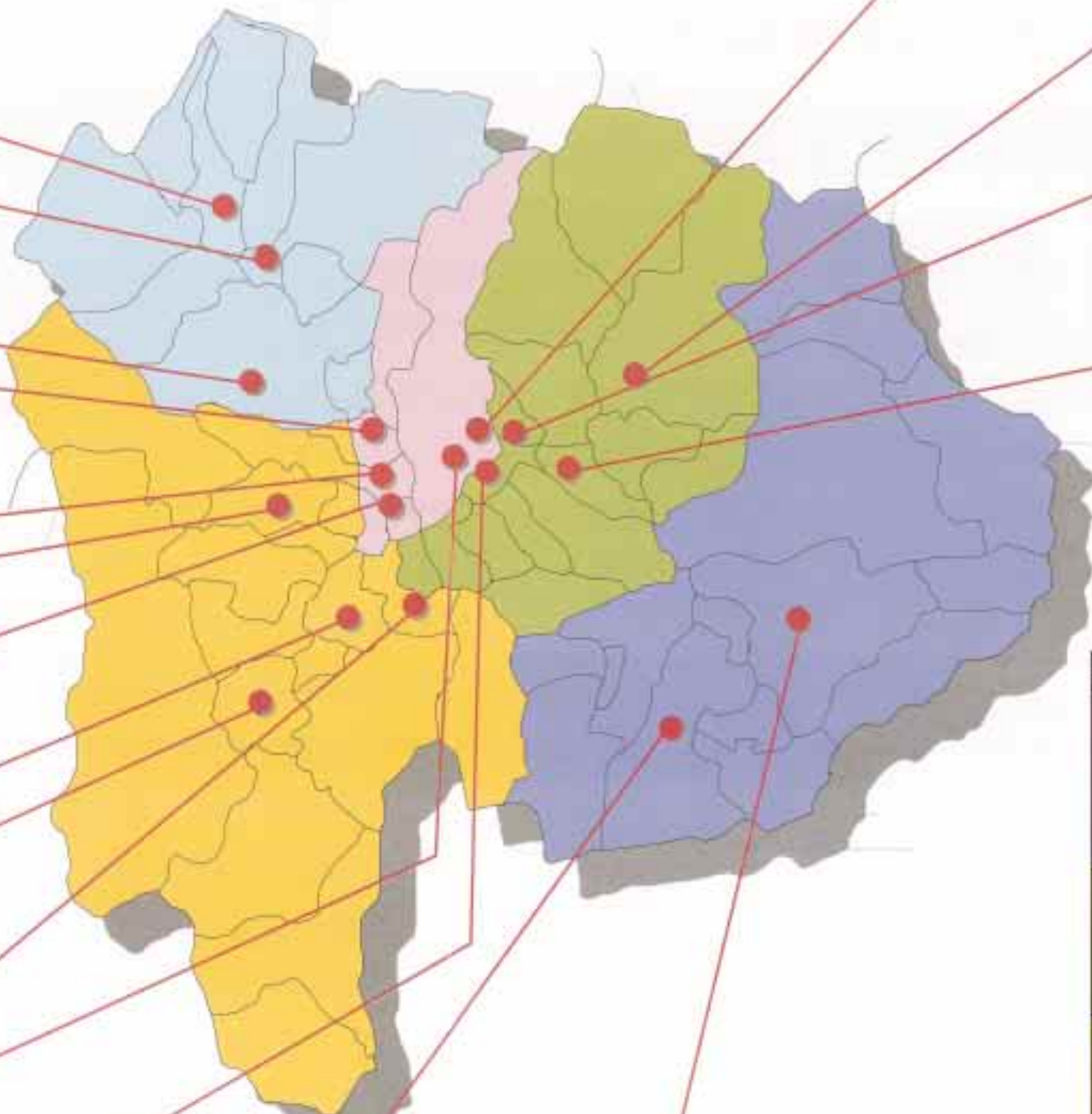
恵信ケア・センター



ふじ苑



いちのみやケア・センター



圏域名	施設名	所在地	電話番号
甲府	山梨ライフケア・ホーム	中巨摩郡電王町 電王新町 2128	0552-79-4711
	甲府かわせみ苑	甲府市横町 554	0552-22-2900
	ひばり苑	中巨摩郡昭和町 御崎 1277	0552-75-9511
	ノイエス	中巨摩郡昭和町 河東中島 443	0552-75-1165
	甲府南ライフケアセンター	甲府市住吉 5-24-14	0552-41-3333
東山梨・東八代	ふじ苑	東山梨郡春日居町 小松 855-6	0553-26-5001
	恵信ケア・センター	塩山市上野 1105	0553-33-3205
	甲州ケア・ホーム	東八代郡石和町 西日市場 2031	0552-63-0242
	いちのみやケア・センター	東八代郡一宮町 竹原田 1255-1	0553-47-4811
映南・映西	ナーシングプラザ三珠	西八代郡三珠町 上野 2066	0552-72-8611
	映南ケア・ホームいいとみ	南巨摩郡中富町 飯富 1688	0556-42-4314
	ケア・センターいちかわ	西八代郡市川大門町 416	0552-72-5121
	映西老人保健センター	中巨摩郡昭和町 下宮地 421	0552-82-7000
映北	映北シルバーケア・ホーム	北巨摩郡長坂町 津沢 907	0551-32-6211
	あさひホーム	韮崎市旭町 上条中野 473	0551-23-3500
	しおかわ福寿の里	北巨摩郡清玉町 藤田 787	0551-42-4604
東山梨・北巨摩	白樺荘	富士吉田市 新屋 1552-3	0555-24-4211
	つる	韮崎市つる 5-1-55	0554-45-1813

山梨県老人保健施設協議会事業紹介

メモリアル全国老人保健施設大会の コーナー スタートは山梨から！

盛況だった記念すべき第1回大会

記念すべき第1回全国老人保健施設大会は、平成2年6月30日と7月1日の両日、山梨県石和町で開催されました。当時、山梨には老人保健施設が2ヶ所だけでしたが、全国の老人保健施設の先駆けとなるよう甲州ケアホームが運営主体となり、山梨県や石和町と協力しながら実施されましたが、参加者は800人を超える盛況でした。大会では「寝たきりからの解放をめざして」をテーマに、島津寿秀大会会長の挨拶で開会され、矢内伸夫全国老人保健施設協議会会長挨拶をはじめ、6月30日の晩に行われた懇親会には津島雄二厚生大臣も出席され、21世紀の本格的な高齢化社会のためには、日本型地域医療福祉システムの構築が必要であり、このためにも老人保健施設の役割は大きいと、期待と激励の御祝辞を頂戴いたしました。



島津大会会長の挨拶

寝たきり防止シンポジウム

厚生省・山梨県主催のシンポジウム

今日の「ろうけん」の 基礎となった大会

大会において実施された研究発表では、「食事・排泄」「介護・看護」「リハビリテーション」「アイデア」「痴呆」など九つのテーマ毎に現場からの率直な意見が出され、活発な討議が行われました。

また、7月1日の午後には、厚生省と山梨県主催の「寝たきり防止シンポジウム」も併せて開催されました。

大会のフィナーレには、女優の高森和子さんによる「母の言い分」と題した記念講演が行われ、大会に花を添えていただきました。

この大会を回顧すると、参加された方々の熱意や活発な討議を通して、今後の日本における高齢者を取り巻く医療や福祉は、老人保健施設を中心として大きく変化していくであろうことが痛感されました。

この大会を契機に本県における老人保健施設の重要性が改めて見直され、それが今日の協議会の基礎づくりにも大きな役割を果たすことになったものと考えています。



第1回大会のポスター図案

平成8年度山梨県老人保健施設協議会定期総会開催される

6月14日、昭和町のアビオにおいて平成8年度山梨県老人保健施設協議会定期総会を開催し、全施設（18施設・32名）の代表者の参加があり、活発な意見交換や討議がなされました。

議案は以下のとおりでした。

1. 平成7年度事業報告並びに収支決算報告について
2. 山梨県老人保健施設協議会会則改正（案）について
3. 役員改選について
4. 平成8年度事業計画並びに収支予算（案）について
5. その他として

■老人保健施設療養費の改定に伴う要望書（案）について

※役員改選での新役員を紹介します。

会 長	島津 寿秀（甲州ケアホーム）
副会長	鈴木 敏明（城北シルバーケアホーム）
理 事	白倉外茂夫（こ ろ）
	笹尾 信（山梨ライフケアホーム）
	米沢 達男（ナーシングプラザ三株）
監 事	山本 恭雄（あさひホーム）
	武川 修（ひばり苑）
顧問	島津 寿秀（甲州ケアホーム）

全国老人保健施設協議会会長山口昇氏を迎えて 合同研修会開催される



第2回山梨県老人保健施設協議会主催の研修会が、11月6日（水）午後2時より山梨県地場産業センター大ホールにおいて盛大に催されました。

この研修会は、全国大会のミニ版ともいえる「山梨県老人保健施設研究大会」を平成9年度から実施する先駆けとして計画し、全国老人保健施設協議会会長山口昇氏を講師に迎え「公的介護保険と在宅サービス及び老人保健施設の今後の取り組み」と題し、ご講演いただきました。各施設より131名の出席

があり、参加者全員が今後における老人保健施設の役割等について再認識することができ、有意義な研修会であったと思います。

白熱のソフトバレーボール大会！優勝の行方は・・・？

山梨県老人保健施設協議会主催による施設職員交流ソフトバレーボール大会が平成8年9月1日に小瀬スポーツ公園において開催されました。今回で第2回目を数え、18施設中14チームが参加し白熱した試合が展開されました。ユニホームを揃えたチーム・応援に力を入れたチーム・優勝したチーム…どのチームも気合いが入り、全試合とも目が離せないすばらしい大会となりました。



（優勝は「あさひホーム」、準優勝は「つる」でした。）



専門部会紹介



看護部会

つ る 田中 まち子

看護部会は、平成3年に老健の質的向上及びぬくもりのある看護技術の向上、相互の研鑽を図ることを目的として作られました。事務局は部会長所属の老健におき、部会長は順番に2年交代（次年度はふじ苑）部会は年3回の6月・10月・2月の第3水曜日午後1時30分から3時頃までとなっています。今年度1回目は、平成8年1月厚生省主催の高齢者ケアプラン研修会実務コースを受講された伊藤佐代子氏に「ケアプランの策定について」伝達講習をしていただき、出席者23名が日常のケアプランに役立つ勉強をすることが出来ました。2回目は美しい紅葉をみながら3ヶ所の施設で（しおかほ福祉の里・岐阜老人保健院センター・岐阜ケアホームいとうみ）行い、忙しい中を丁寧に案内していただき、約1時間づつ見学させていただきました。それぞれの条件の中で、より豊かなケアを…といろいろな工夫されている姿を見せていただき大変参考になり、職員の利用者への暖かい思いやりが伝わってきました。互いの情報交換もでき、実りある1日でした。

今後とも、看護部会の目的達成のためみなさまのご協力ご意見をよろしくお願いいたします。

リハビリテーション部会

甲府南ライフケア 藤 本 登 世

老健施設のリハビリテーションは、医療機関での積極的治療を目的とした内容と異なり本来的に生活リハビリテーションが中心となります。

老健施設の基本理念はリハビリテーション理念「人がらしく生きていくこと」そのものです。リハビリテーションスタッフの役目は、より専門的な知識や技術を身につけ、チームスタッフとの連携を図りながら、より質の高いサービスの提供を目指しケアプラン作成の一助を担い実施していくことです。施設内のみならず、地域や在宅を視野に入れたリハビリテーションが要求されます。生活リハビリテーションは未だ未確立です。

当部会は、理学療法士・作業療法士・ケアワーカー等リハビリ担当職員で構成されています。2年前より高齢者ケアプランに関する研修目的で冊子購入と配布の実施、会員相互間による勉強会の実施を続けています。平成8年度は勉強会（年8回）部会（年4回）開催を予定し実施しています。その他の研修会への参加も積極的に進めています。勉強会は、現在高齢者ケアプラン策定指針と在宅ケアアセスメントマニュアルの冊子を基にして相互の勉強会形式で実施しています。部会員のみならず他からの参加も歓迎しています。

当部会は部会員相互の親睦・交流を図りつつ今後とも期待に応えられるよう役割を果たしていきたいと考えています。

介護部会

つ る 池谷 健生

介護部会は、山梨県内における老人保健施設18ヶ所の介護職員で構成されています。年間に4回の部会活動では、日々実践している介護業務の検討をはじめとし、介護技術・知識の向上を目指しつつ、福祉の心を育みながら介護職員の基本的姿勢に至るまで、幅広く、活動が行われております。

今日の高齢化社会における老人保健施設への期待を十分に理解し、各施設の介護職員が一同に会して抱えている悩みや問題を率直に意見交換できる場として活用されています。具体的な活動内容としては、ケアプラン実践における研修、業務面における効率化を図るための検討会、さらには他職種との連携に関する勉強会が挙げられます。また、レクリエーションについての実践方法の検討や介護職員としてのあり方についても深く討議がなされています。また、レクリエーションについての実践方法の検討や介護職員としてのあり方についても深く討議がなされています。年間に数回は、県内外の施設見学も実施されており、遠方では長野県の老人保健施設「やすらぎの丘」まで見学に訪れ、今後の老人保健施設のあり方について、参加職員間で深く考えさせられたこともありました。

今後の部会活動におきましても、各施設の相互意識を高めながら、刺激し合い、山梨県における老人保健施設の介護レベルアップを目指していきたいと考えております。ケアプランの充実や介護保険の導入など多種多様な福祉施策の中、笑顔絶やさず温かい心で入所者と接することが出来るように、部会活動がさらなる発展をしていく必要があると考えております。

相談員部会

ノイエス 宮井 進

相談員部会は、県下18施設の相談員約30名で構成され、各施設が抱えている悩みや様々なケースを持ち寄っての勉強会、他機関の職員との交流会、あるいは施設見学など、精力的な活動を行っています。老健施設の歴史が浅いだけに、まだ「相談指導員」という職種の内容が十分に定着しているわけではありませんが、その名の通り様々な相談の窓口として、その内容は多岐多様かつ複雑です。第一にお年寄りの入退所・通所に関する諸々の事柄に始まり、それにまつわる行政（在宅サービス、老人ホーム等）、医療機関、その他の機関との連携業務が相談の大半を占めています。そして、相談の内容や伝達事項を家族から職員に、職員から家族に、正確に連絡する「伝書鳩」的な役割を果たしながら、お年寄りの円滑なケアの場を作り上げるのが私たちの大切な仕事です。その他お年寄り（家族）の悩みや愚痴を聞いたり、レクリエーションの盛りあげ役となったり、運転手になったり、ペットの飼育係になったりと相談員の仕事は施設ごとに様々です。

老健施設は、発展途上の施設だけに職員の発想と工夫によって、新しい試みも可能となってきます。みなさんの声が施設の内容を濃いものとしめますので、私たちにお気軽にご相談ください。お待ちしております。

栄養士部会

つ る 鈴木 治仁

栄養士部会は平成8年度より、山梨県老人保健施設協議会専門部会の一員として位置づけられました。栄養士部会が新設されたことにより、18施設の代表として専門栄養士の参加を見、それぞれ施設ごと専門スタッフの充実が成されてきていることがうかがえるとともに、施設栄養士が外部に視野を広げる機会を増やしていただいたことに感謝いたします。現在の状況は、栄養士部会の組織作りが主であり、部会長・副部会長・会計・事務局等、担当の役割分担を決定し、部会運営の方向を見出そうとしている過程にあります。まずは、各施設との情報交換などを通して、仲間を知り己を知る機会を持ち、各自の施設で栄養士として一歩進んだ行動がとれるような研修テーマに添った活動をしていきたいと思っております。又、福祉・医療・保健、すべてを含むケアサービスの確立を目標とする中で、なにを成すべきか、栄養士部会という場を通じ、老人保健施設の食事や栄養士のあり方について検討していきたいと思っております。

事務長部会

甲州ケアホーム 小野崎 晋夫

これまでの事務長部会では、山梨県老人保健施設協議会の縁の下での力持ちとして、老人保健施設が、地域における医療・福祉ニーズに応えるため、各施設の事務長を中心に定期的に部会を開催し、施設相互の情報交換を積極的に行ってきました。さらに昨年から、ケアプラン研修会や保険請求事務研修会を開催し、施設職員の研鑽を図る学習会活動も併せて行っております。

今後はさらに老人保健施設の質的アップを図り、地域や利用者みなさんに喜ばれる施設づくりが出来るよう、事務長部会のみなさんと力を合わせて取り組んでいきたいと考えております。



相談員部会



介護部会

